

歯っぴーマウス通信

Vol.5『歯医者さんって、多職種とどこで繋がってるの?』

第5回は、多職種・多業種連携企画です。

地域生活の中で、歯科医療と様々な職種・業種の方の接点について、一緒に考えてみましょう。

今回は、一般社団法人くじら雲 理事 支援専門員の國安 紗世さんにお話を伺いました。

一般社団法人くじら雲
理事 支援専門員
國安 紗世 様



京都市北歯科医師会
公衆衛生委員
(京都市北区開業)
大河貴久

大河：多職種・多業種連携企画では、『食ること』、『話すこと』、『生きること』、『お口のこと』などをテーマに、様々なお仕事をしている方と歯科医師が対談していきます。
第2回の対談は、一般社団法人くじら雲 理事の國安紗世さんです。多業種・多職種の方と歯科医師の接点についてお話できればと思います。くじら雲さんは、どのような事をされていますか。

國安：放課後デイサービス、計画相談支援、そらたね祭などを通して、街づくりに思いをもつメンバーが集まって活動しています。この中で、支援専門員として相談支援事業に携わっています。

大河：計画相談支援とはどのようなものですか？

國安：手帳をお持ちの方の中で、福祉サービスを今から受けたい、使いたいと思っている方が対象です。病院で長期入院されている方や、地域にお住いで精神的・心理的問題を抱えた方に寄り添う仕事です。知的や精神や発達障害の部分で困りごとにある方、中でも精神障害の方を対象に私は活動しています。

大河：歯科との関わりが必要な方や、歯科専門職がどのように関われば良いと思われますか。

國安：計画相談に限らず障害者福祉の現場でまだサービスと繋がっておられない方は、歯科受診といっても、まず受診に繋げる部分でスペシャルニーズが必要なものが多いと感じています。感覚過敏があったり、受診に対する恐怖を感じておられたりすることも多くあります。また、痛みに関しては少しの違和感程度にしか表現されないことも多くあり、歯科に繋げる・繋がる部分で難しさがあると感じています。精神疾患を抱えておられる方では、ジュース等を常習的に頻回に飲まれていて口腔内の状態が悪い方も多くおられます。しかし、風邪など見えない病に関しては敏感ですが、見える傷や歯の問題などには、治療の必要性などを理解していただくのが難しいことを体験します。また、歯磨きの習慣がなく、口腔内の不快感に対してもスッキリしたと感じる部分にも違いがあるように感じています。お話をしっかり聴いていただくことが大切だと思います。

大河：なるほど受診に繋がる部分から困難があるんですね。私も障がい者歯科に関わっておりますが、京都府内では障がい者歯科地域協力医という体制を整えていますので、活用いただくと良いかと思います。私達、歯科専門職はどのような部分から関わると良いと思われますか。

國安：現場との関わりとしては、健康教室や健診、福祉職員向けの学びの場の開催等がよいと思います。私は、衣食住に対する意欲をまず支えてから、ご自身の体に対しても目を向けていただく場合が多く、地域でのこども食堂などでの取り組みを通して『食ること』という部分に注目しています。皆で食べるということから、美味しいねという共感が生まれ、食に興味を持ってほしいと思っています。『美味しい』という気持ちから、『歯が痛い』『噛みにくい』という気づきを引き出すことができるのではと思っています。また、家族介護の経験からも、『食べる』ことは『生きる』ことと密接に繋がっていると思います。